

令和7年度 グループホーム「ラルクホーム」 事業報告

1 事業の廃止(廃止時期 令和 8 年 3 月 31 日)

ラルクホーム事業に関しては、所管庁へ令和 8 年 3 月 31 日付け事業廃止届出を行った。

令和 7 年度においては、ラルクホーム事業の廃止に向けて随時利用者に移行に関する説明及び意思の確認に取り組むとともに、関係する相談支援事業所はじめ他機関との連携により利用者全員(年度当初利用者数 6 名)の他事業所への移行に取り組んだ。

その結果、令和 7 年 12 月に 4 名の利用者が他事業所のグループホームへ移行し、令和 8 年 3 月に 2 名の利用者が障害者支援施設 福寿荘へ移行した。

なお、全員、日中に利用する事業所は変更なく、ラルクホーム移行時の事業所を利用している。

2 事業所の概要(年度当初)

・所在地 名古屋市天白区高島2丁目701番 オデッセイ島田

・共同生活住居3か所で構成 (定員7名)

オデッセイ島田

女性利用 B 棟2戸

男性利用 B 棟1戸

3 利用者の状況(退所時の実績による)

(1)利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
女	4	4	4	4	4	4	4	4	4	1	1	1
合計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	2	2	2

(2)在籍期間

10 年以上 6 名

(3)年齢別

	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	合 計	平均
男	0	2	0	0	0	2	48
女	0	1	3	0	0	4	55
合計	0	3	3	0	0	6	
平均	0	48	58	0	0		53.1

最高年齢…59 歳(女性)

最少年齢…47 歳(男性)

(4) 障害支援区分

	区分3	区分4	区分5
男	0人	2	0
女	2人	1	1

(4) 障害別

障害名	知的障害	てんかん	ダウン症候群	自閉症	精神障害	身体機能障害	
					不安神経症 統合失調症	言語障害	体幹機能障害
男	2	1	1	1	0	0	0
女	4	1	0	0	0	2	0
合 計	6	2	1	1	0	2	0

2 職員体制等

- 職員 (外数)・・・非常勤

管理者	サビ管	世話人	生活支援員
施設長 (兼務)	1	1 (1)	荘職員兼務 3

- 職員研修

「令和7年度日本相談支援専門員協会東海北陸ブロック研修会愛知県大会」
(オンライン)

3 日常生活支援

引き続き新型コロナウイルス、インフルエンザ感染防止に努め、手洗い、外出時はマスク着用、アルコールによる手指消毒、換気に留意し、普段の生活においても「3密」をさけた生活様式を取り入れて、以下の支援を行った。

- ・自立支援、健康管理、食事の提供等

4 余暇支援

感染症感染防止に配慮しながら可能な余暇、外出を実施。

<余暇活動状況>

月	実 施 内 容
4	花見
6	一泊旅行(東京ディズニーランド)
7	七夕(短冊書き) 外食
8	夏祭り
10	福寿荘運動会 外食
11	外食
12	福寿荘合同クリスマス会
2	節分(恵方巻)
3	外食

随時	誕生会(7、10、11、12、2月)
その他	夜間や休日は、テレビ・DVD観賞・散歩等各々の趣向に合わせて過ごす。休日は世話人と共に適時、ドライブ、近隣でのおやつ購入を行なった。

5 日中活動支援

- ・ 日中利用の他事業所及び障害者支援施設福寿荘(バックアップ)との連携

利用者が利用している事業所と連携をとり、経済的自立に向けて、利用者が精神的に安定して休まず通えるよう、事業所とホームとで1日を通して一貫した支援に努めた。また、個別に問題が発生した際には福寿荘とも連携を図り、問題解決に努めた。

(利用事業所)

生活介護事業所 はあと平針 1名、就労継続支援B型事業所 みーる平針 5名

6 金銭管理支援

- ・ 家賃 一人当たり 29,500 円を負担。その他光熱費、日用品費、食費などの生活費については実費負担。世話人等による管理。
- ・ 利用者、保護者に生活費の収支明細・小遣い帳を報告し、確認して頂いた。

7 保護者との連携

- ・ 各利用者の近況報告等、保護者との情報交換については面談のほか、手紙や電話にて行なった。
- ・ 面会の調整・・・面会については密にならないよう考慮し個別で限定し実施。

8 苦情解決

事業所への福祉サービスに対する苦情はなかった。

9 防火・防災管理

火災・地震等の災害対策については、入所者の安全を最優先とし、年間計画に基づく各種場面を想定した避難訓練を行なった。